

ナマステ

特定非営利活動法人

自然文化誌研究会 会報誌

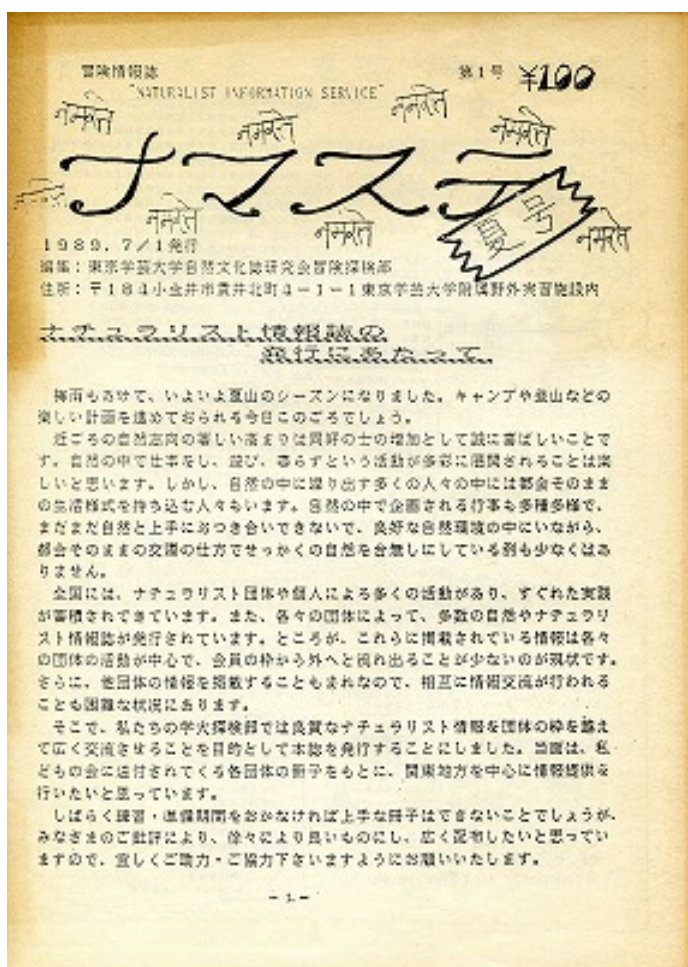
100号

2010年6月1日発行号

祝・ナマステ 100号記念、ナマステ特集！！

1989年より発行を開始した『自然文化誌研究会会報 ナマステ』。皆様のご声援もあり、記念の第100号の発行を迎えることができました。その間、自然文化誌研究会もず〜っと活動が続けてきたわけであり。今後とも、自然文化誌研究会は活動が続けていきますので、よろしくお願いします〜。

今回は「ナマステ特集」ということで、会報ナマステの歴史をたどりたいと思います！！



ナマステ第1号 1989年7月1日発行

No.: ナマステ第1号

発効日: 1989年7月1日発行

サイズ: B5×8 ページ

編集機器: ワープロ

特徴:

- ①「ナチュラリスト情報誌の発行にあたって」という最初の話題がある。
- ②冠に「冒険情報誌」と謳っている。
- ③¥100で販売もしている。
- ④「アイヌ・チセづくり」を掲載。
- ⑤他団体の情報が4ページある。
- ⑥葛生聡氏「身近な冒険」を寄稿

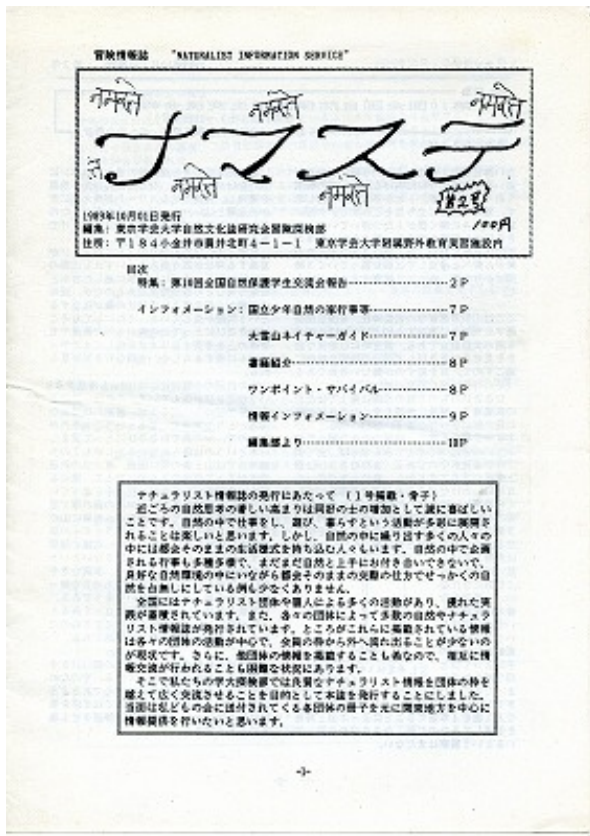
—ナマステ100号 もくじ—

ナマステ特集	1
夏の活動のご案内	6
冬〜春の活動報告	9
タイキャンプからの報告	9
事務局だより	12

<寄稿文> 『ナマステ100号・・・すごいです!』 代表理事 中込卓男

1975年にスタートした自然文化誌研究会ですが、当初このような会報誌はありませんでした。事務局体制ができ、会報誌ナマステが誕生しました。歴代事務局長を中心に毎回、発行してくれていたことが、今回を迎えてくれています。きちっとしたものを作ろうということの反動(?)で、描きたいものを書いた「キッズ会報」が自然発生し、それが人気で、近年また復活したし、現事務局長はホームページでいろいろ日々の出来事を書いてくれ、それがまた好評です。

さて「ナマステ」この先またいろいろとスタイルを変えていくと思いますが、事務局から原稿を依頼されたら、断ることなく、締め切りを過ぎることなく、楽しく自由に、内容の深い(と思われる)ものを、書いて協力してください。よろしくお願いします。



ナマステ第2号 1989年10月1日発行

No.: ナマステ第2号

発効日: 1989年10月1日発行

サイズ: B5×10ページ

編集機器: ワープロ

特徴:

- ①¥100で販売している。
- ②小川泰彦氏「ワンポイントサバイバル」でナイフについて寄稿しているが、No2 となっており、No1は発見できず。
- ③連続講演会「アジアを考える」(連絡先: 瀬谷氏)が11月8~12月6日の全5回で企画されている。



ナマステ第10号 1992年4月1日発行

No.: ナマステ第10号

発効日: 1992年4月1日発行

サイズ: B5×6ページ

編集機器: ワープロ

特徴:

- ①中津川(旧大滝村)で新緑キャンプを開催している。
- ②3月に臨時総会により、名称が変更している。学芸大自然文化誌研究会→自然文化誌研究会(INCH = THE INSTITUTE OF NATURE AND CULTURAL HISTORY)へ変更。「INCH」とは「ゆっくり、のんびり」意味があるようです。

『ナマステありがとう』 岩谷美苗（初代事務局長・現在 NPO 法人樹木生態研究会 事務局長）

ナマステ 100 号すごいですね。

第 1 号は木俣先生に「なんでもいいから早く作れ。」とせっつかれ、悩みながら作った記憶があります。とりあえず埋めようって絵を入れたり、毎回毎回行きあたりばったりの試行錯誤で、走りながらやりました。今思えば恥ずかしいのもあったらうなあ。読み返したくないな。

しかも印刷場所に毎回苦勞してました。いろんな場所で印刷させてもらってましたね。途中印刷機をもらったこともありましたが古過ぎて、近所で活動する多摩川センターさんに借りてたと思います。そういえば昔は携帯もメールもないもんで、電話するのに公衆電話まで行ったりしてました。原稿もメールでもらえないから時間がかかったです。写真は印刷でうまく出ないから絵を書いたり…今思うとローテク満載でした。

原稿の集まりもよくなくて、頼むのも面倒で私が書いてやるって書いてました。(人のことは言えませんが。この原稿も締め切り過ぎてます。)

しかし、私にとっては書く訓練になりました。森林インストラクターの試験の前に鬼のように記事を書いていたんですが、短い時間で文章を書くとかできるようになってたんです。森林インストラクターの試験は「300 字以内で述べよ」ってのが 1 時間で 5 題ぐらいあったんですよ。それは助かりました。ナマステありがとう。

大滝村等で教わった〇〇の作り方とかそういうマニュアル的な記事は、のちそのまま集めれば本になるようにしたかったんですが、結局忙しさに流されて隙間を埋めるようにしか作れなかった。保存版…みたいなのができるといいなあと思っているので、ぜひ 101 号からできたら保存版的なコーナー作って下さい。でも事務局に重圧がかかりすぎてそういう細かいことができないんですよ。それはわかる。そういうところをサポートしてくれる人を見つけないですか。っていうかサポートできそうな人、事務局までご連絡ください。



No.: ナマステ第 25 号

発効日: 1994 年 11 月 1 日発行

サイズ: B5×6 ページ

編集機器: ワープロ

特徴:

①自然文化誌研究会の事務局が国分寺市本多の一心堂ビルに移っている。



No.: ナマステ第 26 号

発効日: 1995 年 1 月 20 日発行

サイズ: B5×6 ページ

編集機器: ワープロ

特徴:

①現在使用している「ナマステ」の題字がはじめて登場したのがこの号。

『便所の中で考えた「ナマステ」』

小川泰彦（INCH前事務局長）

本会の会報を作り始める前に、当然会報の名前を決めようということになった。当時インドにかぶれていた私は「会報の名前はナマステがよい！」と強く主張したことを覚えている。とりあえず妥当な名前が出てこなかったことや、本会の主要メンバーが日本人らしからぬインドの人の顔をしていて、またその方がインドで仕事をしてきたこともあって、そのまま「ナマステ」に決まってしまった。

ナマステという言葉はインドのヒンディー語で、インドを旅行すれば何度も使う言葉だ。「こんにちは」「ありがとう」「こりやまたどうも」など、いろんな場面で使うことができる。会報を配る時に、聞きなれないナマステという言葉からよく「なまず？」「なにこれ？」と聞き返された。

最近はどうだか知らないがその当時、「インドを旅行した人は『もう二度と行かない』という人と『また行きたい』という人に分かれる」とよく言われた。私は後者だった。インドの旅行は日本の中で培われた私の価値基準の【ものさし】を粉々に打ち砕いてくれた。具体的にはどうかと聞かれれば・・・自分が良し悪しを判断している感覚や理論は実は鼻くそで・・・すべてを飲み込む聖なるガンジスの流れが・・・混沌と混乱の中にある穏やかな秩序が・・・「うーむ」・・・私の能力では表現のしようも無い。少なくとも若かった私の人格に多大な影響を与えてくれたことは確かだ。

記念すべき第1号のナマステはB4版のわら半紙。手書きのところもあり、見た目や作りは野暮ったかったが、他団体の情報を掲載するなど当時としては画期的であった。そこからいろいろと体裁を変え、内容を工夫して現在の形になっている。本会が、なんでもありでごちゃごちゃで、なんとなく楽しくて、いいかげんでゆるゆるふにゃふにゃな感じがNPO法人となっても抜けない理由は、会報の名前を変えないからかもしれない。そして、本会の草創期から現在まで、集うみんなの

基本的なスタイルや思いは頑固なまでに変わっていない。

そのナマステが100号となった。「だったらどうなんだ？」といわれれば仕方がない。長い道のりの通過点の一つである。



ナマステ第50号 1999年8月20日発行

No.: ナマステ第50号

発効日: 1999年8月20日発行

サイズ: B5×8 ページ

編集機器: Word かー太郎

特徴:

- ①自然文化誌研究会創立25周年企画を募集
- ②冒険学校の写真展を開催している(デジカメ・CD-Rが普及していないためだろう)。
- ③事務所は国分寺市本多から、東京学芸大学内に戻っている。

<豆知識>

1975年 自然文化誌研究会 設立

1981年 冒険探検部 設立

1985年 自然文化誌研究会冒険探検部に合併

1992年 INCH と呼称する

2004年 NPO 法人自然文化誌研究会となる。

『就職してナマステ』

黒澤友彦 (2002 年から現事務局長)

1996 年に学芸大学に入学して冒険探検部に入部。そのまま自然文化誌研究会に関わったので、「大学から関わった INCH 純粋培養系」だと思っています。他団体のことは全然知りません。

2 年留年して卒業。そのまま INCH の事務局長としてめでたく？就職しました。今年で 9 年目。

私が担当したのは 64 号からになります。当時の OS は Windows97。Word の性能に大差はないが、デジカメはまだ普及しておらず、写真自体は実物を貼り付けていた。

当時は国分寺に事務所をもつ多摩川センターさんに印刷機を借りていました。

KIDS 会報は完全手書きで、会員の皆さんからの期待も高く、いつも苦しみました。冒険探検部の現役学生の女の子(りえまるちゃん)に書いてもらったりしていたが、10 回も発行したところでギブアップしました。現在の KIDS 会報は事務局でネタを用意するものの、理事の田之下さんが担当してくれています。実はもう、手書きではなく「手書き風のフォント」が存在しているのです。便利だな～。

最初のホームページは副代表理事の中込ミさんが担当してくれていました。いつの間にかホームページも事務局で管理するのは当たり前になり、日々の活動の様子もブログで紹介できるようになっています。便利だな～。

携帯電話や電子メールの普及により、事務所を空けて仕事もできるようになりました。この春に痔になった時は自宅で寝転がって仕事をさせてもらいました(事務所も家も、光ファイバーが通っているのです！)。

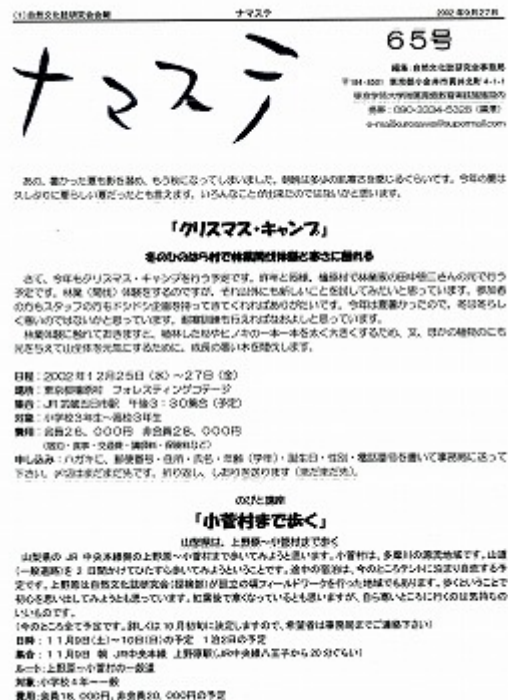
自分が担当したのは 64 号から。65 号では既に、「のびと講座 小菅村まで歩く」を企画しています。あべちゃん(井村さん)と一緒に上野原から歩いたな～。小菅村への第一歩となりました。

ナマステは B5 サイズから A4 サイズに変更。写真も増やし見た目はキレーになりました。しかし、「内容が薄い」というご指摘は多々いただいております。

便利になり、体裁は良くなるが、内容のないナ

マステは心のない挨拶です。精進したいと思います。

100 号を発行するまで働き続けることができている嬉しいです。



ナマステ第 65 号 2002 年 9 月 27 日発行

No.: ナマステ第 65 号

発効日: 2002 年 9 月 27 日発行

サイズ: A4×4 ページ

編集機器: Windows97 Word

特徴:

- ① A4 で白い紙に印刷することになりました。
- ② 「のびと講座 小菅村まで歩く」を企画。小菅村での初企画である。
- ③ 菱井優介くんが事務局に加わる 80 号あたりから、写真などがきれいに載りました。

<事務局より>

紙面が劣化する前に、これまでのナマステ・KIDS 会報をデータにしてホームページで見れるようにしたいな～と思っております。

(『ナマステ特集』これにて終了!!)

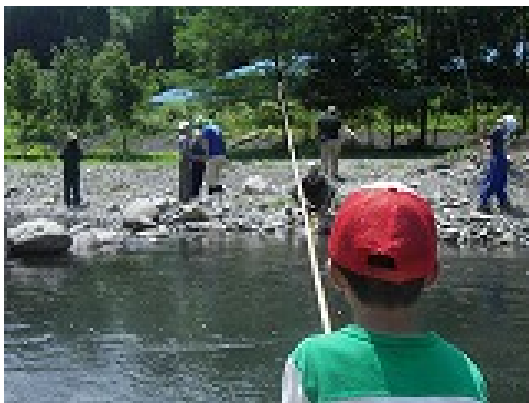
■ 活動案内 ■

その1 冒険学校「こすげ冒険学校」 7.30～8.4(5泊6日)

小菅村の自然と文化を満喫しながら過ごす5泊6日の長期キャンプです。

川遊びでは、飛び込んだり、魚がいっぱいいる淵で泳いだり、魚を捕ったり、思う存分に遊び続けよう！！

寒くないように焚き火をしながらドラム缶でお風呂も沸かしておこう。星を眺めながら眠くなったら寝てしまおう！！一緒に山の中や村の暮らしを探検してみよう～！！みんなで楽しいキャンプをしましょう～！



日程：7月30日（金）～8月4日（水）5泊6日

場所：小菅村のキャンプ場

宿泊：テント・ログハウス・野宿など

対象：小学校3年生～中学校3年生 20名

参加費：会員：¥38,000 非会員：¥40,000

申込み：7月9日（金）までにお申し込みください。

その2 「やまめキャンプ」と「いわなキャンプ」 8.7～8.9

「小菅村をぜひ体験してみませんか？」1泊2日のキャンプをしながら、小菅村の自然と文化を感じるキャンプを行います。親子での参加が可能なキャンプです。大人の方もお子様とご一緒に、小菅村の自然や文化と触れてみませんか？ご一緒にキャンプをしながら、野外で食事をつくり、思いっきり遊びながらテントで休めます。自然という名の遊び場は最高ですよー。

今年も「やまめキャンプ」「いわなキャンプ」と連続して行います。連続で参加して2泊3日のキャンプにすることも可能ですよ～！！



「やまめキャンプ」：8/7～8 1泊2日

「いわなキャンプ」：8/8～9 1泊2日

場所：小菅村のキャンプ場

宿泊：テント・ログハウス・野宿など

対象：小学校3年生以上は子どものみの参加可能。

参加費：1泊2日親子での参加：20,000円

※ 連続参加、子どものみの参加は割引します。

申込み：7月9日（金）までにお申し込みください。



その3 「タイ環境学習キャンプ」 8.14～8.22(8泊9日)

今年もタイキャンプへ行きます！！今回も首都バンコクから車で数時間、ウタイタニー県バンライ郊外の「パンダキャンプ」を拠点に活動を展開します。毎年訪れているファイカウェイ野生動物保護区は世界遺産であり、観光客はもとより、地元の方でも許可がなければ入れません。貴重な動物を見て、密猟者から保護区を守るレンジャーからのお話は興味深く楽しみです。



少数民族のカレン族の集落訪問、伝統工芸品の製作など体験内容を充実させています。恒例の現地教員とのワークショップも好評となっています。高層ビルの

立ち並ぶバンコクと少数民族が暮らす亜熱帯の森に皆さんは何を感じるでしょうか？通訳、ガイドも同行し、現地の大学との連携もありますので安心してご参加くださいませ！！



日 程：8/14（土）～22日（日）

対 象：高校生～一般 参加費：140,000 円

※航空券と現地での費用が含まれています。

申込み： 6月25日（金）締め切りですが、航空券の手配がありますので、まずは事務局までご連絡ください。また、パスポートを持っていない方は、急ぎ用意する必要があります。

日時	活動内容	備考
8月14日(土)	成田→バンコク	グランドビューホテル泊(ラジャバト大学内)
8月15日(日)	バンコク→バンライ	パンダキャンプ泊
	・サム・チュク古市場 ・歓迎会	
8月16日(月)	バンライ→ファイカケン野生動物保護区	ファイカケン野生動物保護区ゲストハウス泊
	・野生動物観察 ・バードウォッチング	
8月17日(火)	バンライ→ファイカケン野生動物保護区	ファイカケン野生動物保護区ゲストハウス泊
	・野生動物観察 ・バードウォッチング ・レンジャーとの交流	
8月18日(水)	ファイカケン野生動物保護区→バンライ	パンダキャンプ泊
	・バードウォッチング ・少数民族の学校訪問 ・カレン、ラオ族の集落訪問(竹工芸品制作体験)	
8月19日(木)	バンライ(パンダキャンプ)	パンダキャンプ泊
	・ティーチャーワークショップ ・タイマッサージ	
8月20日(金)	バンライ→バンコク	グランドビューホテル泊(ラジャバト大学内)
	・ラジャバト大学環境施設見学	
8月21日(土)	バンライ→バンコク	グランドビューホテル泊(ラジャバト大学内)
	・ラジャバト大学交流会 ・バンコク市内観光	
8月22日(日)	バンコク→成田	

※日程表は昨年のもので、プログラムは毎年変えていますので二度目の参加でも飽きませんよ～！！

その4 のびと講座「源流での登山道整備」 7.23~25(2泊3日)の予定

甲武信ヶ岳は、山梨県・埼玉県・長野県の分水嶺となっており、荒川・千曲川・笛吹川の3つの河川の水源地です。ここから流れる水を飲み水、生活用水として利用しています。

私たちの生活にかかわりの深い上流で、本当に美味しい源流の水を味わいながら、登山道での草刈り、整備を行い、一緒に汗をかきませんか？

甲武信小屋のご主人・山中徳治さんのお話を交えて、源流と流域のつながりを身をもって感じる講座です。

体力があまりないのでちょっと自身が・・・という方でも、自分のペースで活動できます。いつもとは違った視点で山を体験してみませんか？13年連続開催の「のびと講座」です。

日 程：7月23日（金）～25（日）2泊3日

場 所：甲武信ヶ岳と甲武信小屋の登山道

宿 泊：甲武信小屋

対 象：高校生～一般 15名

参加費：会員：¥15,000（宿泊費・滞在費・保険代など）

申込み：7月10日（金）までにお申し込みください。



その5 ログスクール(ログビルダー養成講座)再び！！ 週末の小菅村

昨年秋、1年半の歳月を掛け、多くの皆様のご協力により、ついにログハウスが完成しました。できて半年が過ぎ快適に使っていると、まるで昔からそこにあったかのような気がします。昔のことは忘れちゃったい～。



まずは丸太の皮むきから！！

さて、完成記念パーティーをいつ開催しようかな？と考えていたのも束の間、既に「新・ログビルダー養成講座」がスタートしています！！今度は水洗トイレを作ってしまう～という予定でしたが急遽、「新・

作業棟づくり」に変更しました！！

ログビルダーたちは隔週で週末に小菅に泊まりこみながら丸太との格闘を開始しています！

まだ、ログスクール（養成講座）自体の日程は決まっていないのですが、作業はスタートしています。ご興味のある方はぜひ、ログチームに加わり、一緒に熱い汗を流しませんか？

次回は6月27～28日を予定しています。保険の関係もありますので、まずは事務局までご相談ください！！



夜は囲炉裏で飲みながら作戦会議

★タイ環境学習キャンプの記録その 2 中込貴芳（自然文化誌研究会副代表理事）

保護区本部に着いた午後、私たちは付属しているネイチャートレイルの一つを保護区のレンジャーの案内でたどりしました。このトレイル周辺にはトラやヒョウ、ゾウやバンテンと呼ばれる野生牛、鹿などが生息しています。このような場所に行けば、簡単に野生動物に出会えそうに思えますが、サバンナのような平原でもないかぎり、実際には森の中で野生動物に出会えることは稀です。しかし、トレイルを歩くと様々な形の野生動物の足跡や糞（ゾウの糞も！）、また辺りから漂ってくる野生動物の臭いや、木に擦りつけられた動物の尿の臭い、ゾウがなぎ倒した竹藪など、辺りに多くの野生動物が生息している痕跡を感じるだけでも十分に迫力があります。案内してくれるレンジャーは数年来、親しくしていて、この地区の動物の習性や植物について大きなジェスチャーを交えて詳しく教えてくれます。その知識は、長い間の保護区の中での実践に裏付けられていて、本当に豊富

で尊敬に値します。

その日の夕食は、本部の側を流れる川のほとりの食堂施設でとりました。夕食を取り終えると、川の対岸に沢山の鹿が現れました。ライトで照らすと沢山の光がこっちを見えています。中には川を渡ってこちら側の岸に渡ってくるものもいます。また、近くの木にはシーベット（イタチのような小型の哺乳類）が登ってこちらを見えています。

野生動物との出会いを楽しんだ後、その夜は、珍しく晴れ上がりました。タイはこの時期は雨期にあたり、この時期はきれいに晴れ渡ることがあまりありません。しかも月明かりもなく、あたりには人家も全くないために暗いので、日本ではみられない南天の星々が、雲のように明るく流れる天の川とともに見ることができました。夜、遠くから野生動物の鳴き声が時折聞こえてくるのも熱帯の森の醍醐味です。（2009 年の報告より）

■ 活動報告 ■**その 1 「みなかみ雪中キャンプ」報告 2010.3.28～30**

今年の「みなかみ雪中キャンプ」も晴天に恵まれました～。星や月は見えないものの、この時期の雨や吹雪を避けることができただけでも安心です！！

今年は新装備のミニスキーがブームとなりました！！



ちえのわ農学校（ぬくい少年少女農学校）からの参加者も中学 3 年生で、今回は卒業キャンプとなりました。

次のキャンプからはスタッフとして活躍してくれることを期待していますぞ！！

（事務局）



その2 「小菅村での味噌づくり」報告**2010. 4.17~18**

毎年恒例、手づくりの味噌づくりです。今年は 5 年間教えていただいた成果を活かし、自分たちでやってみました。大豆を煮て、杵で搗いて大豆をすり潰していきます。今年の麴は大里村（現埼玉県熊谷市）に住むはちゃんの実家に米 100% の麴を作っていただきました。ちなみに大豆は自分たちで作った大豆です。昨秋に 30kg 程収穫できました。水もキャンプ場の沢から引いている天然水です！！



臼と杵で大豆をすり潰します。

仕込を終えた味噌は、キャンプ場にて保存しています。夏場の転地返しを経て、秋には食べることができます。

（事務局）



皆で搗いた大豆と、麴を混ぜ合わせます。



今年は豆腐にも挑戦してみました。

その3 「野草の天ぷらとお茶つみ」 4.24

毎年恒例の「野草の天ぷらとお茶つみ」デイキャンプは晴天に恵まれ開催することができました。



講師は樹木医の岩谷美苗さん。今年は「アミガサタケ」がまあまあ採れたとのことです。

（事務局）

その4 「雑穀栽培講習会」 2010.5.8

雑穀栽培講習会（種まき編）も毎年恒例になりました。講師には隣村である、丹波山村の岡部良雄さんにお越しいただきました。

アワ・キビを播種しました。この雑穀見本園での収穫物は雑穀ビール「ピーボ」になります。

（事務局）



その5 冒険学校「むらまつりキャンプ」

2010.5.3~5

毎年恒例の「むらまつりキャンプ」晴天に恵まれ、無事に活動を行うことができました。5月6日が平日のため、キャンプ終了後はスタッフもそのまま解散。夏も盛り上がりましょう～♪



＜スタッフの感想です＞



3日目の午前中に村長とキャンプ場周辺を少し散策して、いろいろな植物の名前を教えてくださいました。

←キランソウ(筋骨草)

別名「地獄の釜の蓋」というらしいです。

すごい名前だからさぞかし、どぎつい花なのかと思っていたら、こんなにかわいらしい花でした。由来は「病気を治して地獄の釜にふたをする」「地面に平らに張りつくように葉をひろげることによる」「薬効があるため、地獄へ行く釜にふたをするほどの効き目」など諸説あるようです。

他にもママコノシリヌグイ(継子の尻拭い)という面白い名前の植物があることも教えてくださいました(今回は見つけられませんでした…。)

「継子の尻拭い」は、この草の棘だらけの茎や葉から、憎い継子の尻をこの草で拭くという想像から来ているそうで…。植物の由来は面白い！と改めて思いました！

(大島千亜紀さん:東京学芸大学生4年生)



小菅村に到着後すぐに、川遊びを開始しました！！

その6 「第30回環境教育セミナー」6.5

記念の第30回は、学芸大学にて行いました。石の写真家 須田郡司さんをはじめ、宇根豊さん、安西英明さん、川上香さんを講師に、コーディネーターには塚原東吾さんにお越しいただきました。



その7 ヤスさんの講義 2010.6.14

みなかみ雪中キャンプで一緒している三菱 UFJ 環境財団による学芸大学寄附講座「多彩なアプローチによる環境学習」が毎週月曜日に開催しています。

6月14日は前事務局長の小川泰彦さんによる講義「冒険学校時代の子どもたち」でした。当時の子ども(今は大人)も会社を半休して受講していました！！ (事務局)



ヤスも緊張していたのら～。寄附講座は皆さんも無料で参加できるのら。

○ 今後の活動予定のお知らせ (2010 年夏)

- 7/23～25 頃 のびと講座『源流での登山道整備』@甲武信岳～甲武信小屋周辺
 7/30～8/4 冒険学校『こすげ冒険学校』@小菅村で 5 泊 6 日
 8/7～8 冒険学校『やまめキャンプ』@小菅村 いわなキャンプと連続参加も可能
 8/8～9 冒険学校『いわなキャンプ』@小菅村 やまめキャンプと連続参加も可能
 8/14～22 『タイ環境学習キャンプ』@タイ王国 8 泊 9 日
 9/25～26 のびと講座『きのこキャンプ』@小菅村
 10/9～11 のびと講座『大滝村での自然体験講座』@旧大滝村中津川

※ログハウス企画第 2 弾「ログビルダー養成講座」、「(仮)水洗トイレプロジェクト」に関しては、順次開催する予定です。

○ 事務局より

●5 月 25 日に 10,000 円の会費を納入していただいた方がどなたなのか不明になってしまいました。このたび振込用紙を納入していますが、ご容赦ください。今月中に再発行して確認をしますので・・・。

●『今回のナマステはカラー印刷の予定でしたが、画像を拡大しても文字が読めないので、白黒印刷にしてみました。データにしてホームページで見れるようにしたいと思います。

週末は小菅村でログハウスづくり、雑穀体験(草むしり)に来ませんか?大歓迎です!! クロ』

●『ブジに管理栄養士になりました☆ やった～!! はるこ』

○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか?

略称 INCH (インチ)。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、30 年以上にわたって活動を続けています。2004 年から NPO として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会員には以下 4 つの種類があります。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額(1～12 月)です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正会員: 10,000 円

一般会員: 5,000 円

学生会員: 3,000 円

賛助会員(個人・団体): 10,000 円

郵便振替口座 : 00100-2-665768

口座名 : 特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナマステ 100 号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌
 <発行日> 2010 年 6 月 1 日
 <編集> 自然文化誌研究会 事務局
 <発行> 特定非営利活動法人

自然文化誌研究会
 The Institute of Natural and Cultural History

<事務局> 〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 4115
 TEL & FAX : 0428-87-0165
 携 帯 : 090-3334-5328 (黒澤)
 E-mail : npo-inch@wine.plala.or.jp
 H P : <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>